

はる やそう 春の野草

ぶ け や し き が つ げ じ ゅ ん が つ じ ょ う じ ゅ ん き れ い や そ う さ
武家屋敷は3月下旬～5月上旬にかけて綺麗な野草が見られます。どこに咲
み
いているか見つけてみましょう。

❀ バイモ



が つ が つ さ か し ょ く ぶ つ は な か た ち あ み が さ
3月～5月に咲くユリ科の植物。花の形が網笠
に似ていることから網笠百合とも呼ばれます。

ち ゅ う こ く げ ん さ ん ち や く そ う し ょ う
中国が原産地ですが薬草として使用するため

に300年前に日本へやってきました。球根は

せ き ど や く げ ん り ょ う げ ん ざ い し ょ う
咳止め薬の原料として現在でも使用されています。

❀ タンポポ

か し ょ く ぶ つ せ い め い り ょ く つ よ
キク科の植物。非常に生命力が強く、アスファルト

を突き破って生えることもあります。葉は漢方薬に、

く き く さ ぶ え ね ば い せ ん ち か あ じ ち ゃ
茎は草笛に、根は焙煎するとコーヒーに近い味のお茶

(ノンカフェイン)にもなる、有用な植物です。



❀ すみれ

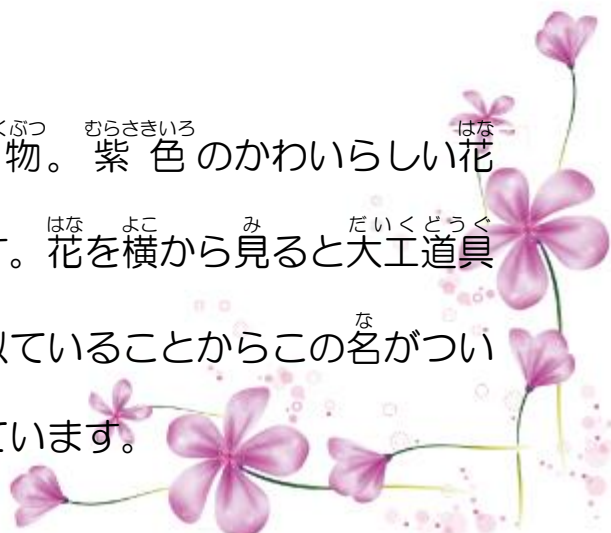


か し ょ く ぶ つ む ら さ き い ろ は な
スミレ科の植物。紫色のかわいらしい花

を咲かせます。花を横から見ると大工道具

の墨入れに似ていることからこの名がつい

たといわれています。



❀ ヨモギ

キク科の植物。春の七草の1つに入っ

ているので、春の植物というイメージが強い

ですが、花は秋に咲きます。5月5日に武家

屋敷で行われる甲冑試着会でもヨモギとショウブを

飾りとして軒に吊るします。昔の人は生命力の強さにあやかってヨモギを食

べ始めたといわれていますが、のちにショウブやヨモギの強い香りが「邪気を払う」

と信じられるようになりました。軒に吊るすのも同じ理由からです。



❀ シャガ



4月～5月に咲く、アヤメ科の植物。形は

アヤメに似ており、日陰に群生しています。

「友達が多い」「私を認めて」という花言葉は

シャガの特徴をよく捉えています。

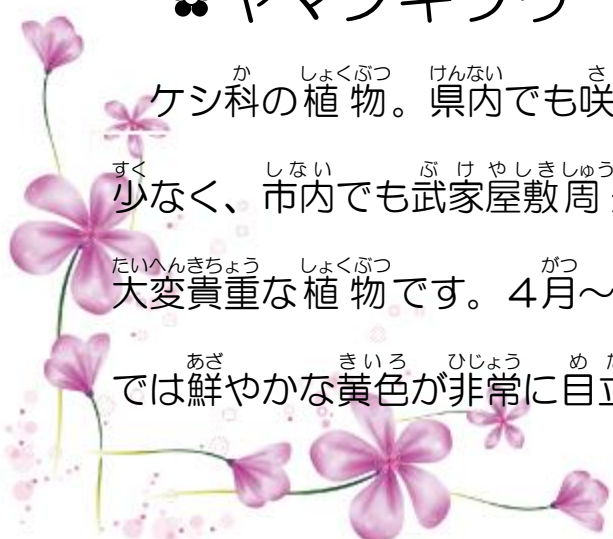
❀ ヤマブキソウ

ケシ科の植物。県内でも咲いている場所は

少なく、市内でも武家屋敷周辺でのみ見られる

大変貴重な植物です。4月～5月頃の武家屋敷

では鮮やかな黄色が非常に目立って咲いています。



❁ ニリンソウ

キンポウゲ科の植物。茎の先に咲かせる花の数が1つ

だとい輪草、2つだと二輪草と区別されます。

春に一瞬だけ可愛らしい花を咲かせることから

「スプリング・エフェメラル(春の妖精)」と呼ばれます。

可憐さに似合わず日陰で湿気のある場所を好みます。



❁ タツナミソウ

シソ科の植物。花が同じ方向を向き、打ち寄せる

波に似ていることからこの名が付けられました。

武家屋敷だけではなく、武家屋敷通りでもタツ

ナミソウが群生している姿が見られます。



❁ ムラサキケマン

ケシ科の植物。筒状で花の先が唇型という不思議

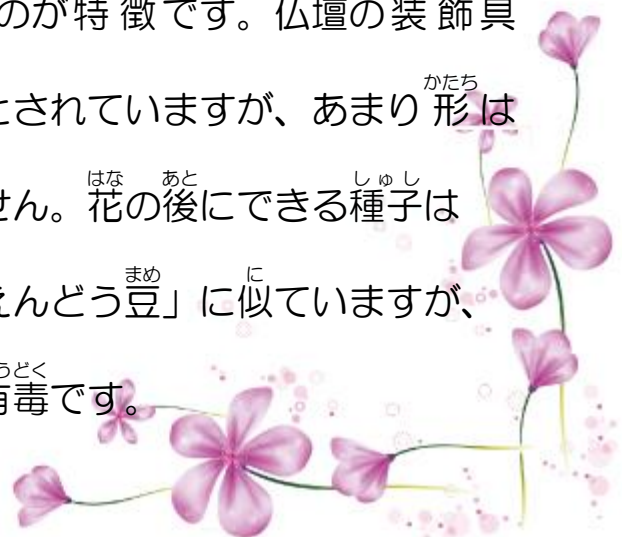
な形をしているのが特徴です。仏壇の装飾具

「華鬘」が由来とされていますが、あまり形は

似ていません。花の後にできる種子は

「えんどう豆」に似ていますが、

有毒です。



❁ ハナニラ

かめい しょせつ か
科名については諸説あります。(ヒガンバナ科・

かとう せいちよう
ユリ科等) 10~15センチほどしか成長せず、

ほしがた はな さ きゅうこんしょくぶつ う
星型の花を咲かせます。球根植物ですが、植えた

ままでも毎年球根が増えるため、年々多くの花を

さ しまえ は かたち にお
咲かせます。名前のとおり、葉の形や匂いはニラにそっくりです。



❁ オドリコソウ

か しょくぶつ はな かたち かさ かぶ おど こ に
シソ科の植物。花の形が笠を被った踊り子に似ていること

からこの名が付きました。乾燥させたオドリコソウは

ようつう やくとう もち
腰痛に効くといわれ、薬湯として用いられてきました。

また、オドリコソウから出るエキスは肌荒れ防止作用も

あり、シャンプーや化粧水としても利用されています。



❁ ヒメオドリコソウ

か かぶ は みどりいろ しょうぶ
シソ科の植物。下部の葉は緑色ですが上部に

いくにつれてむらさきいろ
いくにつれて紫色になるのが特徴です。

オドリコソウの半分ほどの大きさのため、

この名が付いています。

